

Sibelius 2 (9)

アレンジ-1

昨年本誌で古山俊一先生が連載記事の中で Sibelius2 について「アレンジ機能」が面白そうだとお書きになっていましたが、さすがに古山先生の勘は鋭いと感心します。確かに Sibelius2 のアレンジ機能はユニークです。Finale にも以前から【音域で譜表を分割する】とか、【和音を分散】とかその逆の【和音へ集約】などのサブメニューを持つブロック移動ツール等がありましたが、その用途としてピアノ譜から聖歌隊用の楽譜を作る等が想定されていました。確かに、楽譜を書くという作業の他に編集するという作業は大きな機能です。特に編曲という作業は時には作曲以上のエネルギーと時間を必要とします。

コンデンス譜と呼ばれる指揮者のための楽譜は時には 20 段にも及ぶオーケストラの総譜を 3 段程度のしかも移調楽器もすべて同じ調にしてあります。この楽譜を作成する作業は結構インテリジェントな能力と高度な音楽スキルが要求されます。あるいは、ピアノ譜しかないものをオーケストラ用に編曲するとすれば、逆にパートを増やすだけではなく作曲者のようなクリエイティブな才能も要求されます。

現場の音楽教師、合唱やブラスの指導者で編曲や移調の作業に忙殺されている人、作曲編曲を勉強する学生、DTM で授業を受ける小中学生。こんな人達の手助けになるツールとして Sibelius2 では「アレンジ」という機能を用意しています。

このアレンジ機能こそは Sibelius2 の最もユニークでしかも将来性のある機能でしょう。このアレンジの基本コンセプトは学生が編曲や楽器編成を勉強したり、プロの音楽家がアレンジを効率的に行うことができることを狙うかなり実用的な機能です。

アレンジは【エクスプロード】と呼ぶ拡大展開機能と【リダクション】と呼ぶ簡約化機能が中心で、バロック音楽をジャズに変えるというような機能は現状ではありません。また、作曲と同様にアレンジやオーケストレーションは人間の感性と音楽的才能に依存しますので「機械的に完成させる」ことはできません。この「人間の領分を侵さない」というコンセプトは逆に音楽のような人間くさい作業には信用できるコンセプトであると思います。

多くの翻訳ソフトがそうであるように、「私は犬を飼っています」が「I have raised the dog.」とか、「I keep a dog.」にこそなれ、最も自然な「I have a dog.」にはならないのと同じで、完全な翻訳ソフトは期待出来ません。ところがもし、「私は犬を飼っています」ではなく、「私は一匹の犬を持っています」

から翻訳させますと見事「I have a dog.」が出力されます。このことは、アレンジ機能についても言えます。つまり、アレンジが正確に、且つ適切に行われるためには予めパッセージを「最適化」しておく必要性を Sibelius2 は認めているのです。それでも Sibelius2 はかなり賢く、例えばテンポの速いフレーズは木管楽器に割り当てたり、音楽によってはその楽器の長所を生かすためにそのフレーズをオクターブ単位で移調させたりします。

デモのアレンジ用の楽譜では「展覧会の絵」のピアノ譜からブラスの楽譜を生成する方法が示されています。

Piano

展覧会の絵

Modeste Moussorgsky

Allegretto vivo, sempre scherzando. A Market Place in Limoges (抜粋)

この楽譜を木管 12 パート、金管 9 パートにエクスプロードするわけですが、予めアレンジの対象となる小節（複数可）と例えば両手なのか片手なのかを決めて【コピー】します。以後の作業はこのコピーされたデータを素材として行うためオリジナルを損ねることはありません。このデータを展開先にペーストする時にアレンジが行われます。

このコピーされたデータの中に音程変化のない打楽器が含まれていてはアレンジが出来ませんから注意が必要です。

次に木管パートや金管パートの中から展開したい対象となるものを選び（それぞれのパートの小節をシフト・クリック）、【音符】の中から【アレンジ】を選ぶかそのショートカット Ctrl+Shift+V でアレンジを指示します。



この場合バンドという【アレンジスタイル】の【標準】を選ぶ事にします。数秒後にアレンジは完成し、次のようになります。

これは元のピアノ譜(最上段)の5小節目から8小節目までの例ですが、パッセージに応じて実に見事にアレンジされているのが分かります。試みに演奏させてみますと、元のピアノ譜の部分は演奏されず、アレンジされたものだけがその通り演奏されます。この作業を手作業でやるならば、どの位大変かを考えるとなかなかこの機能は使えることがわかります。次にこのアレンジスタイルの一部を示します。

- エクスプロード
- キーボード・リダクション: 1譜表あたり1声部
- キーボード・リダクション: 1譜表あたり2声部まで
- キーボード・リダクション: 1譜表あたり3声部まで
- リダクション
- 標準アレンジ
- 1ファミリ: サクソフォン
- 1ファミリ: ハープ、ピアノ+キーボード
- 1ファミリ: ピッチ付きパーカッション
- 1ファミリ: リコーダ
- 1ファミリ: 金管楽器
- 1ファミリ: 弦楽器、ダブルベースがチェロと同じパートを演奏
- 1ファミリ: 弦楽器、チェロとダブルベースは独立
- 1ファミリ: 弦楽器、バイオリン+IIはオクターブ違いで同じパートを演奏
- 1ファミリ: 弦楽器、高音バイオリンI
- 1ファミリ: 木管楽器
- 2ファミリ (ブロック): ハープ/ピアノ/パーカッション (高速) + 金管楽器
- 2ファミリ (ブロック): ハープ/ピアノ/パーカッション (高速) + 弦楽器
- 2ファミリ (ブロック): ハープ/ピアノ/パーカッション (高速) + 木管楽器
- 2ファミリ (ブロック): 金管楽器 (高速) + 弦楽器
- 2ファミリ (ブロック): 金管楽器 (高速) + 木管楽器
- 2ファミリ (ブロック): 金管楽器 (最速) + ハープ/ピアノ/パーカッション
- 2ファミリ (ブロック): 弦楽器 (高速) + ハープ/ピアノ/パーカッション
- 2ファミリ (ブロック): 弦楽器 (高速) + 金管楽器
- 2ファミリ (ブロック): 弦楽器 (高速) + 木管楽器
- 2ファミリ (ブロック): 木管楽器 (高速) + ハープ/ピアノ/パーカッション
- 2ファミリ (ブロック): 木管楽器 (高速) + 金管楽器
- 2ファミリ (ブロック): 木管楽器 (高速) + 弦楽器
- 2ファミリ (ミックス): 金管楽器+ハープ/ピアノ/パーカッション
- 2ファミリ (ミックス): 金管楽器+木管楽器
- 2ファミリ (ミックス): 弦楽器+ハープ/ピアノ/パーカッション
- 2ファミリ (ミックス): 弦楽器+金管楽器
- 2ファミリ (ミックス): 弦楽器+木管楽器
- 2ファミリ (ミックス): 木管楽器+ハープ/ピアノ/パーカッション
- オーケストラ: クラシック、クラリネット付き (ブロック)
- オーケストラ: クラシック (ブロック)
- オーケストラ: クラシック (ミックス)
- オーケストラ: バロック オラトリオ (聖歌隊つき)
- オーケストラ: バロック、弦楽器+通奏低音
- オーケストラ: バロック、通奏低音つき
- オーケストラ: バロック木管協奏曲
- オーケストラ: ロマン派、トランペットとピッコロなし (ミックス)
- オーケストラ: ロマン派、トランペットとピッコロ付き (ミックス)
- オーケストラ: ロマン派、ハープ付き (ブロック)
- オーケストラ: ロマン派、ピアノ協奏曲 (ブロック)
- オーケストラ: 近・現代、パーカッション、キーボード+ハープ、弦楽器 (ブロック)
- オーケストラ: 近・現代、パーカッション、キーボード+ハープ、木管楽器 (ブロック)
- オーケストラ: 近・現代 (ブロック)
- オーケストラ: 近・現代 (ミックス)
- オーケストラ: 標準、トランペット、ピッコロ、パーカッションなし (ミックス)
- オーケストラ: 標準、パーカッションなし (ブロック)
- オーケストラ: 標準、パーカッションなし (ミックス)
- オーケストラ: 標準 (ブロック)
- オーケストラ: 標準 (ミックス)
- オーケストラ: 印象派、ソロ木管楽器、ハープ+弦楽器
- オーケストラ: 印象派、木管楽器+ハープ
- オーケストラ: 印象派 (ブロック)
- オーケストラ: 印象派 (ミックス)
- オーケストラ: 映画、BGM (背景音楽)
- オーケストラ: 映画、アクション (ブロック)
- オーケストラ: 映画、ミステリ (ブロック)
- オーケストラ: 映画、メインテーマ
- オーケストラ: 映画、標準
- コーラス: TはSを、BはAをそれぞれ1オクターブ下げて同じパートを演奏
- コーラス: Aにチューニング
- コーラス: Bにチューニング
- コーラス: SはAと同じパートを演奏
- コーラス: SはAと同じパートを演奏、TはBと同じパートを演奏
- コーラス: Tにチューニング
- コーラス: Tは1オクターブ下げてSと同じパートを演奏
- コーラス: TはBと同じパートを演奏
- コーラス: 標準
- ジャズ: クインテット
- ジャズ: トラッド ジャズ
- ジャズ: ビッグバンド (ブロック)
- ジャズ: ビッグバンド (ミックス)
- ソロ: オーボエ
- ソロ: クラリネット
- ソロ: コルネット
- ソロ: サクソフォン
- ソロ: ダブルベース
- ソロ: チェロ
- ソロ: チューバ

以下省略しますがいかに多いかわかりでしょう。